

新春のご挨拶

深浦町長 平沢 一臣

あけましておめでとうございます。皆様には、令和八年の新春を健やかに迎えられたこと心よりお喜び申し上げます。また、日頃から町政運営に温かい御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

町長就任から一年が経過しました。「誰もが安心していつまでも住み続けたい」と思う、活気と希望があふれる深浦町」の実現に向けて、自らが先頭に立つて政策を進めていきたいの思いを、一年前と変わらずに持ち続けています。そして、行政がなすべきことは、町民の生命と暮らしを守り、豊かな地域社会を築き、それらを次世代に引き継ぐことにあると肝に銘じながら、まちづくりを推進して参ります。

新たな年を迎え、就任一年の出来事振り返りながら、今後のまちづくり施策について触れてみたいと思います。

令和七年は、深浦町と岩崎村が合併して二〇年となる記念すべき節目でした。これまでの歩みを辿り、町勢進展に御尽力いただきました方々に感謝の意を伝える「合併二〇周年式典」を始めとして、「十二湖三湖巡り」、「大相模安治川親方講演会」、「海上花火大会」、「深浦ねぶた祭り復活」、「つがる地区小学生相撲大会」などの催しを、官民連携して実施することができました。記念事業を通して、

改めて新町深浦町としての一体感を醸成し、地域の絆を深める機会を創出してきたと考えています。

頻発化・激甚化する災害への備えとして、昨年五月の防災訓練と十一月には大戸瀬地区で津波避難訓練を実施したほか、八月には国土交通省との間で「災害時における海上輸送体制の支援協力に関する協定」を締結しました。また、二月に岩手県大船渡市で発生した大規模林野火災の際には、深浦消防署及び岩崎消防分署の職員計八名が緊急消防援助隊として現地の消火活動に参加しています。本年二月には、当町を含む津軽地区四市九町村で構成する三つの消防事務組合が共同指令センターの運用をスタートさせます。連携強化により救命救急体制や消防力の向上に結びつくものと期待しています。

昨年は、全国的に人里でのクマの出没が相次ぎました。当町においても、目撃・捕獲件数ともに過去最高を記録し、極めて深刻な状況となりました。クマの出没情報が寄せられた際には、町職員や鳥獣被害対策実施隊員が現場に急行し、再度出没の防止や捕獲措置を講じています。幸い当町において人身被害がなかったものの、クマを含めた鳥獣への対策については、引き続き緊張感を持って体制強化を進めていきます。

化しており、その課題解決の鍵は「就労環境の改善」と「生産性向上」にあると

の考えの下、農業では基盤整備事業の推進や農業師弟制度の創設、林業では伐採適齢期を迎えつつある木材価値向上に資する専門人材の登用、水産業ではつくり育てる漁業への取組支援、観光業では働き手不足に対応すべくDXの導入支援をそれぞれ進めます。

人口減少対策における移住施策を強化するため、一定期間試験的に深浦町での暮らしを体験できる環境（お試し住宅）を整備します。移住を検討されている方々に当町の魅力を発信していきます。

本年四月下旬、風待ち館の一角に県内初となる「ふるさとブックオフ」がオープンします。書籍を通じた地域貢献を目指すブックオフ社と町が連携協定を締結し、指定管理を受託する円覚寺が本の委託販売を行います。町民が本と触れ合う機会を創出し、まちなかの周遊や賑わい向上につながることを期待しています。

子どもや子育て世帯への応援は町の最重要政策と位置付けます。これまでの支援（学校給食費無償化、子ども医療費無償化、第三子以降保育料無償化、保育所等副食費無償化、第一子からの出産祝い金、住宅家賃補助、放課後児童育成、高校生通学支援等）に加え、昨年七月からは保育所等の主食費を無償化したほか、本年三月には小学校、中学校、高等学校に入学する児童生徒一人につき十万円を支援する制度をスタートさせます。深浦町の豊かな自然の中で、子どもたちが夢を育み、健やかに成長できる環境づくりを進めていきます。



令和八年、気持ちを新たに、ふるさと深浦町を、子どもたちの笑顔が弾み、高齢者が生きいきと暮らし、互いの個性や多様性を認め合い、障がいを持った人もそうでない人も共に助け合う、そうしたまちにしたいという思いで日々努力を続けていきます。

結びに、この一年が町民の皆様にとっても、健康で幸多き年となりますよう心から祈念いたしまして、年頭のあいさつとさせていただきます。

年頭のご挨拶

深浦町議会

議長 斉藤 登

登

明けましておめでとうございます。輝かしい新春を迎え、深浦町議会を代表いたしました。町民の皆様にご挨拶申し上げます。

旧年中は、町議会に対し温かいご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。議員一同を代表し、心より御礼申し上げます。

近年は自然災害が全国で相次ぎ、さらにクマをはじめとした野生動物による被害も深刻化しており、当町にとっても看過できない課題となっております。自然との共生を図りつつ、人里に近づかせない対策や捕獲体制の強化、自衛対策への支援など、町と関係機関が連携して進める取組を議会としてもしっかりと後押ししてまいります。

昨年は、新たな町政のもと、深浦町の

未来づくりが着実に前進した一年でもありました。平沢町長は、町民の皆様の声に丁寧な耳を傾けながら、地域課題の解決に向けた歩みを進めておられます。議会としても、より良い政策提言と議論の深化を通じ、町政の発展に力を尽くしてまいります。

そして昨年は、深浦町にとって大変嬉しい話題もありました。深浦町出身の安治川親方が率いる、安治川部屋において、安青錦関が幕内優勝を果たし大関へと昇進され、その活躍は相撲ファンだけでなく、全国の多くの方々も注目を集める嬉しいニュースとなりました。安治川親方が築いてこられた指導は、力士たちの成長に確かな力となっており、素晴らしい結果を残してくれました。その姿は、ふるさと深浦に大きな誇りと希望を与えて

くございました。今後も、郷土出身の親方と安治川部屋の皆さんを、町を挙げて応援していきたいと思っております。国では高市総理が就任され、地方に寄り添う政策の展開が期待されます。当町の基幹産業である漁業・農業では、資源管理、基盤整備、燃油高騰への対応、担い手の確保など、多くの課題があります。これらは国の支援が欠かせない分野であり、議会としても町民の声を町政に丁寧に反映し、必要な支援がしっかりと活かされるよう努めてまいります。

深浦町は、人口減少などの課題を抱えている一方で、豊かな自然、海と山の恵み、歴史や文化など、多くの可能性にあふれています。教育・子育ての充実、観光の振興、産業の再生など、町民の皆様と一緒に力を注いでいくべきテーマが数

多くあります。本年も、町民の皆様にご寄り添いながら、一つ一つの課題に誠実に向き合い、安心して暮らせる町づくりに全力で取り組んでまいります。結びに、本年が町民の皆様にとりまして、健やかで実り多い一年となりますよう心より祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

